

ゆりかご園だより

2022.9.1

2期のねらい(6~9月)

からだづくり活動を通して子どもの
仲間関係の質を高めよう

2019年8月から発行していた「ゆりかご通信」を3年ぶりに発行しました。ゆりかご通信の歴史は1990年代に遡り、第1号の発行は1993年7月です。

今から54年前、札幌市の認可保育園は2歳からの入所でした。子どもを産んでも働き続けたいと、母親たちが0歳と1歳の子どもが通える無認可の共同保育所をつけたのです。2歳になって他園に転園すると「給食をおかわりさせてもらえない」「散歩に行かず室内にばかりいる」といった現実と直面。「それなら6歳までの保育園をつくろう」と、当時の親や職員たちが1972年に「後援会」を発足させました。

後援会の**目的**は「子どもが集団の中でいきいきと育ち、父母も保母も運営に参加できるような理想の保育園をめざす。ゆりかご保育園がよりよく発展するように物心両面において支援する。」

活動は・園運営に財政的な援助をする

- ・集団の中で全面発達をめざす「乳幼児教育」について学習し、保育政策の改善を求めていく
- ・会員相互の親睦を図る
- ・ニュースを年4回発行する と当時の資料にありました。

個人や団体合わせて5,000名をこえる方たちの協力を得て、2,000万円以上も借金し園舎を建て、1973年10月、ゆりかごが開園しました。借金は「後援会」が中心となり、年に2回、春と秋にバザーを開催し、18年かけて全額返済しました。返済を機に「後援会」を存続させるのか、後援会だけでなく父母の会・職員会・理事会でも話し合いを重ねた結果、「後援会」を「発展的解消」し、「ゆりかご保育園を育てる会(通称ゆりかご会)」が1993年1月に発足しました。

後援会はなくなりましたが、大人同士のつながりが深められ、子どもたちや日頃お世話になっている地域の方に喜んでもらえるバザーを続けていこうと、年1回に回数を減らし、コロナ禍前の2019年まで28年続けました。

今回の通信が届き、手紙やメール、電話などで近況をお知らせしてくださる方、夏休みということで園にあそびに来てくださる方と、たくさんのつながりを実感しました。ゆりかごに心を寄せてくださる方たちに励まされながら、これからもゆりかごの「命」ともいえるつながりを大切にしていきたいと思っております。